

資 料 一 覧

| | | |
|-------|-----------------------|----|
| 資料 1 | 主な機器一覧 | 1 |
| 資料 2 | 令和元～3年度に実施した調査研究成果の概要 | 2 |
| 資料 3 | 令和4～6年度の調査研究計画の概要 | 8 |
| 資料 4 | 学会発表課題一覧 | 15 |
| 資料 5 | 報告書等一覧 | 18 |
| 資料 6 | 学術誌掲載論文一覧 | 21 |
| 資料 7 | 他の試験研究機関等との連携 | 23 |
| 資料 8 | 技術研修・学会等への参加 | 28 |
| 資料 9 | 講師派遣の実績 | 31 |
| 資料 10 | 研修指導の実績 | 32 |

主な機器一覧
(令和5年9月現在)

資料1

主な機器

| 整理番号 | 名称 | 用途 | 整備年度 |
|------|---|-----------------------------|--------|
| 1 | 高速液体クロマトグラフ装置 | 有害大気汚染物質の試験検査、調査研究 | R3 |
| 2 | ガスクロマトグラフ質量分析装置 | 有害大気汚染物質の試験検査、調査研究 | H26 |
| 3 | 誘導結合プラズマ質量分析装置 | 有害大気汚染物質の試験検査、調査研究 | H29 |
| 4 | オートダストサンプラー | 工場排ガスの試験検査 | R3 |
| 5 | 走査型電子顕微鏡 | アスベスト検査 | H26 |
| 6 | 分光光度計 | 排水の試験検査、水質汚濁事象原因究明 | R4 |
| 7 | 高速液体クロマトグラフ質量分析装置 | 排水の試験検査、水質汚濁事象原因究明 | H30 |
| 8 | オートアナライザー | 排水の試験検査、調査研究 | H27 |
| 9 | ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析装置 | 有害化学物質の試験検査、調査研究 | H30 |
| 10 | 高分解能ガスクロマトグラフ質量分析装置-四重極型ガスクロマトグラフ質量分析装置 | 有害化学物質の試験検査、調査研究 | R2 |
| 11 | イオンクロマトグラフ | 排水の試験検査、水質汚濁事象原因究明 | R4 |
| 12 | 液体シンチレーションカウンタ | 環境放射線等の監視測定 | R4 |
| 13 | 高線量 γ 線測定装置及び中性子線測定装置 | 環境放射線等の監視測定 | R4 |
| 14 | 放射線測定装置 (α 、 γ) | 環境放射線等の監視測定 | R1, R2 |
| 15 | 大気中ふっ素自動測定装置 | 環境放射線等の監視測定 | H28 |
| 16 | β 線自動測定装置 | 環境放射線等の監視測定 | H26 |
| 17 | 低バックグラウンド α 線自動測定装置 | 環境放射線等の監視測定 | H26 |
| 18 | 誘導結合プラズマ質量分析装置 | 環境放射線等の監視測定 | H24 |
| 19 | α 線波高分析装置 | 環境放射線等の監視測定 | H17 |
| 20 | モニタリングポスト | 環境放射能水準調査(原子力規制庁委託) | R1、R4 |
| 21 | ゲルマニウム半導体検出器 | 環境放射能水準調査(原子力規制庁委託) | H23 |
| 22 | パルスフィールドゲル電気泳動装置 | 病原体等の試験検査、調査研究 | R3 |
| 23 | 超遠心機 | 病原体等の試験検査、調査研究 | H26 |
| 24 | 蛍光顕微鏡(落射蛍光顕微鏡) | 病原体等の試験検査、調査研究 | H21 |
| 25 | 分光光度計(マイクロプレートリーダー) | 病原体等の試験検査、調査研究 | R4 |
| 26 | PCR装置 | 病原体等の試験検査、調査研究 | H19 |
| 27 | DNAシークエンサー | 病原体等の試験検査、調査研究 | H21 |
| 28 | 次世代シークエンサー | 病原体等の試験検査、調査研究 | R3 |
| 29 | リアルタイムPCR装置 | 病原体等の試験検査、調査研究 | R2 |
| 30 | 透過型電子顕微鏡 | 病原体等の試験検査、調査研究 | H3 |
| 31 | 液体クロマトグラフタンデム型質量分析装置 | 食品中残留農薬検査、家庭用品検査、医薬品検査、調査研究 | H17 |
| 32 | ガスクロマトグラフ質量分析装置 | 食品中の残留農薬の試験検査 | H29 |
| 33 | リアルタイムPCR装置 | 遺伝子組換え食品の試験検査、調査研究 | H28 |
| 34 | 高速液体クロマトグラフ | 医薬品の試験検査 | H27 |
| 35 | 溶出試験器 | 医薬品の試験検査 | H28 |

令和元～3年度に実施した調査研究成果の概要（令和4年度外部評価（事後評価）結果）

1 課題別の評価結果

| | | | | | | | | | |
|----------|---|------------|---------|----|----|----|-----|----|-----|
| 課題名 | 災害等の発生時における環境モニタリング手法に関する研究 | | | | | | | | |
| 担当科 | 環境科学部 大気科 | | | | | | | | |
| 課題の概要 | 災害等の発生に伴って大気中に拡散され得る化学物質（揮発性有機化合物）について、環境への影響を評価するため、迅速性や精度、災害等発生時の活用性等を踏まえた環境モニタリング手法を検討する。 | | | | | | | | |
| 評価結果 | 区 分 | | 5点 | 4点 | 3点 | 2点 | 1点 | 平均 | |
| | 評価項目 | 目標達成度 | | | 4人 | 4人 | | | 3.5 |
| | | 有効性 | 想定した効果 | 1人 | 6人 | 1人 | | | 4.0 |
| | | | それ以外の効果 | | 6人 | 2人 | | | 3.8 |
| | | 効率性 妥当性 | 費用対効果 | 1人 | 4人 | 3人 | | | 3.8 |
| | | | 手法・計画 | 1人 | 2人 | 5人 | | | 3.5 |
| | | 成果の活用・発展性 | | 1人 | 5人 | 2人 | | | 3.9 |
| 総合評価 | | 1人 | 6人 | 1人 | | | 4.0 | | |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・安価で活用性の高い環境モニタリング手法が構築されたことを評価する。 ・この研究を基に、災害等発生時における対策の実用化に向けて努力してほしい。 ・検出感度の改善や、過去の事例を参考とした対象物質の選定についての発展が期待される。 | | | | | | | | |

【総合評価凡例】

5点：著しい成果が得られた。 4点：十分な成果が得られた。 3点：一定の成果が得られた。
2点：見込んだ成果を下回った。 1点：成果が得られなかった。

| | | | | | | | | | |
|----------|---|------------|---------|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 課題名 | 農薬類の河川生態系への影響調査と一斉分析法に関する研究 | | | | | | | | |
| 担当科 | 環境科学部 水質科 | | | | | | | | |
| 課題の概要 | 農薬類が関与する水質汚濁事象の発生時において原因物質を迅速かつ効率的に分析するため、多成分の一斉分析法を開発するとともに、県下河川における農薬類の存在状況の把握や生態リスク評価等を行う。 | | | | | | | | |
| 評価結果 | 区 分 | | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均 | |
| | 評価項目 | 目標達成度 | | | 4 人 | 4 人 | | | 3.5 |
| | | 有効性 | 想定した効果 | 2 人 | 3 人 | 3 人 | | | 3.9 |
| | | | それ以外の効果 | | 1 人 | 7 人 | | | 3.1 |
| | | 効率性 妥当性 | 費用対効果 | 1 人 | 5 人 | 2 人 | | | 3.9 |
| | | | 手法・計画 | | 4 人 | 4 人 | | | 3.5 |
| | | 成果の活用・発展性 | | | 5 人 | 3 人 | | | 3.6 |
| 総 合 評 価 | | 1 人 | 4 人 | 3 人 | | | 3.8 | | |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・所有する機器を有効活用してこれまでより幅広い分析を可能としたことや、藻類等に対する生態リスク評価を行ったことは評価できる。 ・公表に際しては、丁寧な表現と客観的な書き方に留意してほしい。 ・今後は、前処理や後の解析を含む分析時間全体の短縮を図ることや、学会等での発表、外部との連携も進めてほしい。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|----------|--|------------|---------|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 課題名 | 児島湖の汚濁負荷に関する調査研究 | | | | | | | | |
| 担当科 | 環境科学部 水質科 | | | | | | | | |
| 課題の概要 | 児島湖の水質改善施策の検討資料とするため、流入河川のうち水質の改善が低調な倉敷川での支流別・発生源別の汚濁負荷量の寄与割合を推計するほか、流出水対策地区の対策効果や、湖内及び周辺用水路の水生生物の状況を把握する。これらの調査により、第7期湖沼水質保全計画の各種施策の推進に寄与する。 | | | | | | | | |
| 評価結果 | 区 分 | | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均 | |
| | 評価項目 | 目標達成度 | | | 2 人 | 6 人 | | | 3.3 |
| | | 有効性 | 想定した効果 | | 4 人 | 4 人 | | | 3.5 |
| | | | それ以外の効果 | | 1 人 | 7 人 | | | 3.1 |
| | | 効率性 妥当性 | 費用対効果 | | 1 人 | 7 人 | | | 3.1 |
| | | | 手法・計画 | | 2 人 | 6 人 | | | 3.3 |
| | | 成果の活用・発展性 | | | 5 人 | 3 人 | | | 3.6 |
| 総 合 評 価 | | | 2 人 | 6 人 | | | 3.3 | | |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・元来非常に難しい研究テーマであり、児島湖、特に倉敷川等に関する汚濁負荷の傾向が把握できたことは意義があるが、行政施策への反映のためにも、定量的な考察が必要である。 ・大気汚染対策として推進されている農地への稲わら等のすき込みと児島湖に流入する汚濁負荷の関係についても検討されたい。 ・刈り取った水生植物については、環境への負荷に配慮した処理も重要である。 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|----------|--|------------|---------|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 課題名 | 感染症及び食中毒起因菌の汚染実態に関する研究 | | | | | | | | |
| 担当科 | 保健科学部 細菌科 | | | | | | | | |
| 課題の概要 | 感染症等の発生及びまん延防止に係る対策の一助とするため、腸管出血性大腸菌やレジオネラ等の感染症等起因菌について、感染源となる食品や環境等の汚染実態や発生状況を調査する。 | | | | | | | | |
| 評価結果 | 区 分 | | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均 | |
| | 評価項目 | 目標達成度 | | | 5 人 | 3 人 | | | 3.6 |
| | | 有効性 | 想定した効果 | 2 人 | 3 人 | 3 人 | | | 3.9 |
| | | | それ以外の効果 | | 5 人 | 3 人 | | | 3.6 |
| | | 効率性 妥当性 | 費用対効果 | 1 人 | 5 人 | 2 人 | | | 3.9 |
| | | | 手法・計画 | | 4 人 | 4 人 | | | 3.5 |
| | | 成果の活用・発展性 | | 2 人 | 5 人 | 1 人 | | | 4.1 |
| 総合評価 | | 2 人 | 4 人 | 2 人 | | | 4.0 | | |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・当初目的以外の成果も十分に挙げており、国立感染症研究所との連携や、学術誌への掲載も評価できる。 ・活用や発展の可能性も見込まれるので、今後も研究を継続されたい。 | | | | | | | | |

| | |
|----------|---|
| 課題名 | ウイルス・リケッチア感染症の包括的流行疫学に関する研究 |
| 担当科 | 保健科学部 ウイルス科 |
| 課題の概要 | 感染症の流行の拡大防止、さらには発生自体の抑制の一助とするため、下水及び媒介動物等を対象とした調査により、地域全体としての病原体の分布を包括的に把握・解析する。 |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスへの対応を優先すべきことが明確であり、それがまさに公的試験研究機関の使命であるため、本研究の中断はやむを得ない。 ・計画していた研究内容は地域の課題の解決につながっており、着眼点はとても良い。また、下水の調査技術を有することが、国主導の下水中の新型コロナウイルス量による流行予測に関する調査研究への参加につながったことも大きい。 ・下水サーベイランス、マダニ調査ともに今後の研究再開と成果に期待したい。 |

※本研究は、新型コロナウイルス感染症の検査対応のため令和2年1月から中断しており、今回の事後評価において、「考慮すべき特段の事情があるので、数値による評価は行わない。」とすることで外部評価委員会からの了承を得た。

なお、本研究は令和4～6年度に実施する課題として、令和3年度の外部評価委員会における事前評価で「実施することが適当」との評価を得ており、継続して実施中である。

| | | | | | | | | | |
|----------|--|------------|---------|-----|-----|-----|-----|----|-----|
| 課題名 | 畜産物に含まれる抗菌性物質等の分析技術の開発に関する研究 | | | | | | | | |
| 担当科 | 保健科学部 衛生化学科 | | | | | | | | |
| 課題の概要 | 畜産物(はちみつ、牛の筋肉等)における抗菌性物質等の残留が疑われる事案に対応するため、平成30年度までに開発した一斉分析法での検査が不可能なテトラサイクリン系及びアミノグリコシド系の抗菌性物質等について、系統別分析法を開発する。 | | | | | | | | |
| 評価結果 | 区 分 | | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均 | |
| | 評価項目 | 目標達成度 | | | 1 人 | 7 人 | | | 3.1 |
| | | 有効性 | 想定した効果 | | 4 人 | 4 人 | | | 3.5 |
| | | | それ以外の効果 | 1 人 | 4 人 | 3 人 | | | 3.8 |
| | | 効率性 妥当性 | 費用対効果 | | 5 人 | 3 人 | | | 3.6 |
| | | | 手法・計画 | | 3 人 | 5 人 | | | 3.4 |
| | | 成果の活用・発展性 | | 1 人 | 3 人 | 4 人 | | | 3.6 |
| 総合評価 | | | 4 人 | 4 人 | | | 3.5 | | |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・着々と分析可能項目が増えていること、当初目的以外の成果も十分に得られたことが評価できる。 ・本研究で確立した分析法で行政検査を行うなど、活用可能性についても良い傾向にある。一方で、このような基礎的分析技術の研究に公的機関が取り組む必要性（緊急時対応等）についての説明がやや不足していた。 ・今後ははちみつ・牛以外についても研究を進めることを期待する。 | | | | | | | | |

2 その他助言・指摘事項

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を解決しようとする姿勢は素晴らしい。 ・全体的に、限られた人員と予算で、また研究を行うには困難が伴う時期だったが、県民の安全・安心に関わる行政の基盤となる成果を十分上げ、中には全国的に見ても優れた成果も含まれている。 ・研究の成果等については、県民等に対して自信を持って公表や提言を行えるよう、統計的な分析を十分行い、わかりやすく丁寧な表現で広報に努めてほしい。 ・今後は、開発した手法の技術移転と、大学や他機関との連携、共同研究についても 前向きに検討してほしい。 ・今回の説明は、以前より聞きやすくなっていた。しかし、計画から成果までを含めた研究全体を評価しやすくするため、計画時点で成果の活用策を考慮し、見える化・数値化した目標を立てておくと思う。 ・試験研究を含む業務の体制については、県民のニーズに応えることができるよう、LC/MS/MSをはじめとする必要な設備の更新や人員の充実を本庁に要求してほしい |
|---|

令和4～6年度の調査研究計画の概要（令和3年度外部評価（事前評価）結果）

1 課題別の評価結果

| | | | | | | | | |
|----------|--|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 課 題 名 | 岡山県におけるPM2.5高濃度事象に関する研究 | | | | | | | |
| 担 当 科 | 環境科学部 大気科 | | | | | | | |
| 課題の概要 | 県内（児島湾干拓地周辺を除く。）でPM2.5が高濃度となる要因を明らかにし、また児島湾干拓地周辺については高濃度事象に係る知見を充実させ、環境基準達成率の改善に向けた県の施策推進の一助とする。 | | | | | | | |
| 評 価 結 果 | 区 分 | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均 | |
| | 評 価 項 目 | 必 要 性 | | 7 人 | 1 人 | | | 3.9 |
| | | 有 効 性 | | 7 人 | 1 人 | | | 3.9 |
| | | 効率性・妥当性 | | 5 人 | 3 人 | | | 3.6 |
| | 総 合 評 価 | | 7 人 | 1 人 | | | 3.9 | |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活に即した課題であり、また県のPM2.5の環境基準達成率が低いのであれば、なおのこと必要性は高い。県の施策との関連もあり、成果が期待される。 ・野焼きにターゲットを絞りすぎている印象である。 他の原因も含めてPM2.5への野焼きの寄与度を客観的に分析してほしい。その際には、各地点のNOxや光化学オキシダント等との相関も見ることが必要と思われる。 ・野焼きについては、営農者等との関係を構築し、野焼きのメリット・デメリットを踏まえて結果を説明していくことが必要である。 ・稲わらのすき込み以外の有効利用方法も検討してほしい。 ・児島湾干拓地周辺以外でも、原因究明のためのPM2.5成分分析の実施を検討してほしい。 | | | | | | | |

※凡例

| |
|--|
| <p>【評価項目】： 5点 極めて優れている 4点 優れている 3点 普通 2点 改善すべき 1点 劣っている</p> <p>【総合評価】： 5点 優先的に実施することが適当 4点 実施することが適当 3点 計画等を改善して実施することが適当 2点 実施の必要性が低い 1点 計画等を見直して再評価を受けることが必要</p> |
|--|

| | | | | | | | | |
|--------------|---|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 課 題 名 | 水環境中の医薬品及び生活関連物質（PPCPs）の実態把握に関する研究 | | | | | | | |
| 担 当 科 | 環境科学部 水質科 | | | | | | | |
| 課題の概要 | 県内の河川中のPPCPs（人が生活する中で使用する人・動物用医薬品、医薬部外品及び化粧品等の総称）成分の分布及び濃度を明らかにする。 | | | | | | | |
| 評 価 結 果 | 区 分 | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均 | |
| | 評 価 項 目 | 必 要 性 | | 3 人 | 5 人 | | | 3.4 |
| | | 有 効 性 | | 3 人 | 4 人 | 1 人 | | 3.3 |
| | | 効率性・妥当性 | | 4 人 | 2 人 | 2 人 | | 3.3 |
| | 総 合 評 価 | | 3 人 | 5 人 | | | 3.4 | |
| 助言・ 指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・長期的視点からこうした学術的・基礎的データの重要性は理解できるが、前提や活用性についての十分な説明が必要である。 ・調査地点・調査頻度について、対策等、先を見越した検討が必要である。 ・濃度の調査だけでなく水生生物への影響も検討してほしい。 | | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--------------|---|---------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 課 題 名 | 児島湖の水質改善に向けた難分解性有機物等の実態把握に関する研究 | | | | | | |
| 担 当 科 | 環境科学部 水質科 | | | | | | |
| 課題の概要 | 難分解性有機物等の分析方法を検討し、児島湖に適した調査方法を確立する。また、確立した方法を用いて児島湖及び流入河川等の難分解性有機物等の実態を把握し、児島湖に流入する難分解性有機物等の発生源の推定を行うことで、児島湖浄化施策の立案に資する。 | | | | | | |
| 評 価 結 果 | 区 分 | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均 |
| | 評 価 項 目 | 必 要 性 | 2 人 | 5 人 | 1 人 | | 4.1 |
| | | 有 効 性 | | 5 人 | 3 人 | | 3.6 |
| | | 効率性・妥当性 | | 4 人 | 4 人 | | 3.5 |
| 総 合 評 価 | | 6 人 | 2 人 | | | 3.8 | |
| 助言・ 指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・児島湖のCOD濃度の改善が低調で環境基準未達成となっている原因は難分解性CODである可能性が高いと指摘されているものの、実態が把握されていないことから、本研究の成果の活用は大いに期待される。 ・発生源の推定には調査地点の適切さや季節性等を考慮する必要があるので、有識者や他機関と連携した緻密な実施計画を要望する。 ・調査方法や成果から得られるであろう水質改善方法について、わかりやすい説明が必要である | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------------|--|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 課 題 名 | 岡山県内で分離された感染症及び食中毒起因菌の病原性に関する研究 | | | | | | | |
| 担 当 科 | 保健科学部 細菌科 | | | | | | | |
| 課題の概要 | 県内で発生頻度が高い腸管出血性大腸菌感染症及びレジオネラ症について、起因菌の菌株ごとの病原リスクを明らかにする。 | | | | | | | |
| 評 価 結 果 | 区 分 | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均 | |
| | 評 価 項 目 | 必 要 性 | 1 人 | 7 人 | | | | 4.1 |
| | | 有 効 性 | 1 人 | 6 人 | 1 人 | | | 4.0 |
| | | 効率性・妥当性 | 1 人 | 7 人 | | | | 4.1 |
| | 総 合 評 価 | 1 人 | 7 人 | | | | 4.1 | |
| 助言・ 指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 県として実施すべき重要課題である。 ・ これまでの研究成果・検出菌株の把握などのデータの継続性も重要である。 ・ 外部との連携も考えられており、評価できる。 研究の実施に当たっては、実施の背景等をしっかり説明して欲しい。 ・ 本研究の実施は県民生活の向上に寄与すると思われるので、保健所等と連携し成果を積極的に活用することを期待する。 ・ 可能ならば、他の食中毒起因菌についての研究も期待したい。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|--------------|--|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 課 題 名 | ウイルス・リケッチア感染症の包括的流行疫学に関する研究 | | | | | | | |
| 担 当 科 | 保健科学部 ウイルス科 | | | | | | | |
| 課題の概要 | 行政検査の効率化により、感染症の原因ウイルスの特定効率を向上する。また、地域全体の病原体の分布を把握・解析し、感染症の流行拡大防止や発生防止の一助とする。 | | | | | | | |
| 評 価 結 果 | 区 分 | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均 | |
| | 評 価 項 目 | 必 要 性 | 5 人 | 3 人 | | | | 4.6 |
| | | 有 効 性 | 3 人 | 4 人 | 1 人 | | | 4.3 |
| | | 効率性・妥当性 | 1 人 | 6 人 | 1 人 | | | 4.0 |
| | 総 合 評 価 | 3 人 | 5 人 | | | | 4.4 | |
| 助言・ 指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・まさに今実施すべき重要課題である。 ・下水サーベイランスなどの調査の経験は、今後の様々な研究にも活かされると思われ、またリケッチアやマダニによる死亡者は西日本で多く見られることから、取組の意義は大きい。 ・成果の活用や発展を期待する。 特に近年はアウトドア指向が強まっていることから、野山でのマダニ等の危険性を明らかにし、学会等の他にインターネット等を活用しながら成果を広く県民に周知することが重要である。 ・気候変動による感染症拡大への対応という観点での成果の活用も十分考えられる。 国の研究機関等との連携も検討してはどうか。 | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|----------|---|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 課 題 名 | 食品の健康被害の防止に関する研究 | | | | | | | |
| 担 当 科 | 保健科学部 衛生化学科 | | | | | | | |
| 課題の概要 | <p>① ふき取り検査によるアレルゲンの目視化及び洗浄に関する研究 工場・学校等の現場において、アレルゲンの残留場所を定量的に示すアレルゲンマップを作成し、アレルゲンのコンタミネーションを未然に防ぐ体制整備の一助とする。また、家庭でもできるアレルゲンのコンタミネーションを防止するための効果的な予防・洗浄方法を検討する。</p> <p>② 自然毒の分析技術の開発 キノコ中の植物性自然毒の分析法を開発し、キノコによる食中毒発生時に迅速に対応できる体制を整備する。</p> | | | | | | | |
| 評価結果 | 区 分 | 5 点 | 4 点 | 3 点 | 2 点 | 1 点 | 平均 | |
| | 評価項目 | 必 要 性 | 2 人 | 5 人 | 1 人 | | | 4.1 |
| | | 有 効 性 | 1 人 | 5 人 | 1 人 | 1 人 | | 3.8 |
| | | 効率性・妥当性 | | 5 人 | 2 人 | 1 人 | | 3.5 |
| | 総合評価 | 1 人 | 6 人 | | 1 人 | | 3.9 | |
| 助言・指摘事項等 | <ul style="list-style-type: none"> ・アレルゲン、自然毒ともに重要なテーマである。 ・食物アレルギーは近年社会的課題となっており、重篤症例も報道されているため県民の関心が高いこと、本研究がHACCPの推進に繋がることを期待されることから、研究は必要である。 ただし、本研究計画からは計画や実施体制、目標設定、達成可能性の妥当性等が十分に把握できなかった。 ・県が取り組む理由を十分説明してほしい。 また、実施に当たっては内外の研究動向も見ながら進めてほしい。 ・キノコの自然毒については、発生件数自体はそれほど多くはないものの、発生時の対応のための準備として重要な研究と考える。 LC-MS/MS を有効活用して業務の幅を拡げてほしい。 | | | | | | | |

2 その他助言・指摘事項

- ・全体としては、今取り組むべき研究課題であり、また意欲的なもの、県民ニーズに応えようとするものも多く見られた。
ただし、中には行政や県民のニーズとの関係が十分説明されていない課題も見られた。
- ・限られた人的資源や予算を投入する上で、必要性をクリアに説明することは重要である。
ページ数が制限されるのであれば、参考資料として添付してほしい。
- ・今回の説明では、人命に直結する課題の方が重要に見えたが、そうでない課題であっても、中長期的な必要性や基礎的な資料を収集しなければならない理由など、その研究が県にとって重要であることを説明する努力が必要と感じた。
- ・地方自治体の環境研究機関は、全国的に見ても予算や人員が漸減されているが、地域の住民や生態系を守るための基礎データの積み上げという重要な任務があり、なくしてよいものではない。
こうした情勢を覆すためには、本庁への十分な説明や、社会的な関心の高い新たな課題に踏み込むことにより、新たな予算・人員を獲得することも時には必要である。
- ・今後の国の研究開発の動向等も見ながら岡山県で取り組むべき課題を抽出するなど、より広い視野での課題設定・社会貢献を期待する。
また、高度な専門性・知見を持つ大学等学術研究機関や、全国的視点から類似の研究を行っている国の研究機関との連携は非常に重要と思われるので、実施に当たっては常に模索してほしい。
- ・計画段階においても、評価項目の「新規性・独創性」と相反する視点かもしれないが、時間と経費の節約のためにも、これまでの他機関での蓄積を十分活かしてほしい。
- ・成果について、県の試験研究機関であるので行政にフィードバックすることは必須であるが、更に踏み込んで施策に反映させることも重要な任務である。この観点が弱い課題も見られた。
- ・試験研究で開発した測定技術によって行政検査の精度が向上し、試験研究の成果が県の施策に反映されるなど、環境保健センターの機能の高度化を目指してほしい。
また、学会発表等のアカデミック方面と並んで、HPやSNSを活用し県民に広くわかりやすく広報することも重要である。関係機関との連携も欠かせない。
- ・今回の事前評価では、各委員から活発な発言や研究の方向性についての貴重な示唆があり、大変有意義であった。
研究計画の立案には様々な制約があると思われるが、今回の結果を踏まえて内容を十分に検討し、各研究の伸展に繋げてほしい。
- ・研究においては、必ずしも当初の計画どおりに伸展しないことも少なくないが、着実に成果を上げることを期待したい。
特に、微生物を扱う科では、新型コロナウイルス感染症の制御の最前線で、県民の健康を守るため日夜奮闘されており、心から敬意を表したい。
- ・どこかの時点で試験研究にも落ち着いて取り組むことができるよう願っている。

学会発表課題一覧（令和2年度）

資料4

| No. | 題名 | 学会名 | 発表者 |
|-----|---|--------------------|---|
| 1 | 岡山県で検出されたロタウイルスAの遺伝子解析（2018-19年シーズン） | 第61回日本臨床ウイルス学会 | 松岡保博、濱野雅子、木田浩司 |
| 2 | 5年間の環境水サーベイランスにより検出されたエンテロウイルス伝播の解析 | 第79回日本公衆衛生学会 | 吉田 弘*、三好龍也*、小澤広規*、木田浩司、後藤明子*、筒井理華*、高橋雅輝*、濱島洋介* |
| 3 | LC-MS/MSによる牛の筋肉及び腎臓中アミノグリコシド系抗生物質一斉分析法の検討 | 第57回全国衛生化学技術協議会 | 難波順子 |
| 4 | トリアジン系除草剤シアナジンの分析法と環境調査結果について | 第47回環境保全・公害防止研究発表会 | 吉岡敏行、大月史彦、橋本清美、沖 拓哉 |
| 5 | 浸出水中のポリ塩化ナフタレンの挙動と水質特性との関係解析 | 第55回日本水環境学会年会 | 矢吹芳教*、伊藤耕二*、亀岡寛史*、井上 豪*、大久保香澄*、松村千里*、小口文子*、立野雄也*、小川知也、古賀智子*、石垣智基*、遠藤和人*、山田正人* |

*当センターに所属していない研究者

学会発表課題一覧（令和3年度）

| No. | 題 名 | 学会名 | 発表者 |
|-----|---|--------------------|--|
| 1 | 岡山県で発生するつつが虫病の多様性 | 第54回岡山県獣医公衆衛生学会 | 木田浩司、岡本尚子、 松岡保博、石井 学、 船橋圭輔、長尾和彦、 濱野雅子 |
| 2 | 排水中の揮発性有機化合物（VOC）測定時に使用するブランク及び希釈に適する水の検討 | 第48回環境保全・公害防止研究発表会 | 沖 拓哉、中野温朗、 橋本清美、吉岡敏行、 林 隆義 |
| 3 | LC-MS/MSを用いたはちみつ中の動物用医薬品一斉分析法の検討 | 第58回全国衛生化学技術協議会 | 難波順子、浦山豊弘、 金子英史、佐藤 淳、 繁田典子 |
| 4 | フグ食中毒発生時の嘔吐物及び尿中テトロドキシンの分析について | 第58回全国衛生化学技術協議会 | 浦山豊弘、難波順子、 金子英史、佐藤 淳、 繁田典子、狩屋英明 |

学会発表課題一覧（令和4年度）

| No. | 題 名 | 学会名 | 発表者 |
|-----|---|--------------------|--|
| 1 | 植物性自然毒であるシキミ中のアニサチンに関する検討 | 日本食品衛生学会第118回学術講演会 | 難波順子、浦山豊弘*、金子英史、佐藤 淳、藤本佳恵、繁田典子、池田壮一*、石部統久*、難波泰治*、浮田琢視*、繁地 潤*、森重李南*、江口実穂* |
| 2 | 岡山県における水たまり中の Legionella pneumophila を主としたレジオネラ属菌調査 | 第27回岡山県保健福祉学会 | 河合央博 |
| 3 | 岡山県におけるSARS-CoV-2の次世代シーケンサーによる全ゲノム解析調査(2020-2022) | 第27回岡山県保健福祉学会 | 土本祐栄、岡本尚子、石井 学、船橋圭輔、池田和美、濱野雅子、平田真弓、鶴海 剛、木田浩司 |

*当センターに所属していない研究者

報告書等一覧

令和2年度

| No. | 種別 | 題名 | 報告書名等 | 著者 |
|-----|------|--|--|---|
| 1 | 報告書等 | 人形峠周辺の環境放射線等測定報告書（令和元年度） | 人形峠周辺の環境放射線等測定報告書 | 森上嘉亮、中野拓也、小川 登、三宅和彰、二階堂日出伸、望月 靖 |
| 2 | 報告書等 | 中四国ブロックにおける食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究（令和2年度分担研究報告書） | （厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業） 食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究 令和2年度 総括・研究分担報告書及び平成 30～令和2年度 総合研究報告書 | 研究分担者 狩屋英明 研究協力者 河合央博、岡田 達郎、中嶋 洋 山根拓也*、林 宏樹*、三瀬博也*、平塚貴大*、青田達明*、尾羽根紀子*、佐藤 豪*、関 和美*、浅野由紀子*、氏家絢子*、矢儀田優佳*、影山温子*、尾崎早矢香* |
| 3 | 報告書等 | 中四国ブロックにおける食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究（平成30年度～令和2年度総合研究報告書（分担報告）） | （厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業） 食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究 令和2年度 総括・研究分担報告書及び平成 30～令和2年度 総合研究報告書 | 研究分担者 狩屋 英明 研究協力者 河合央博、森本晃司、仲 敦史、岡田達郎、中嶋 洋 田中大和*、山根拓也*、福間藍子*、小谷麻祐子*、林 宏樹*、三瀬博也*、檀上博子*、平塚貴大*、青田達明*、佐藤香緒里*、栗林智早*、山本美和子*、坂本 綾*、上田久仁子*、山木戸聡*、尾羽根紀子*、大塚 仁*、野村恭晴*、篠原 礼*、佐藤 豪*、関 和美*、浅野由紀子*、木村千鶴子*、阿部祐樹*、氏家絢子*、矢儀田優佳*、影山温子*、尾崎早矢香*、潮のどか* |
| 4 | 報告書等 | 地研ネットワークを利用した食品およびヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査 | 厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業） 食品由来薬剤耐性菌のサーベイランスのための研究 令和2年度 分担研究報告書（厚生労働科学研究成果データベース登録中） | 研究分担者 四宮博人* 研究協力者 狩屋英明ほか |
| 5 | 報告書等 | 地研ネットワークを利用した食品およびヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査 | 厚生労働科学研究費補助金（食品の安全確保推進研究事業） 食品由来薬剤耐性菌のサーベイランスのための研究 平成 30 年度～令和 2 年度 分担（総合）研究報告書（厚生労働科学研究成果データベース登録中） | 研究分担者 四宮博人* 研究協力者 狩屋英明、森本晃司、仲 敦史ほか |
| 6 | 報告書等 | 病原体検出マニュアル 4類感染症 レジオネラ症 2020 年9月版 | 病原体検出マニュアル 令和2年9月1日改訂 | 執筆者（コメント者） 狩屋英明 |

| | | | | |
|----|------|-------------------------------------|--|--|
| 7 | 報告書等 | 環境水を用いた新型コロナウイルス監視体制を構築するための研究 | (厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業) 指定研究 環境水を用いた新型コロナウイルス監視体制を構築するための研究 総括・分担研究報告書 | 研究代表者 吉田 弘* 研究分担者 原本英司*、北島正章*、田嶋 淳*、貞升健志*、濱崎光宏*、小澤広規*、喜多村晃一* 研究協力者 望月 靖、木田浩司 坂 恭平*、筒井理華*、高橋雅輝*、藤森亜紀子*、植木 洋*、渡部徹*、西山正晃*、北川和寛*、小川貴史*、藤沼裕希*、長島真美*、河上麻美代*、林 真輝*、熊谷遼太*、吉田 勲*、糟谷 文*、藤原卓士*、千葉隆司*、檜原慎久*、森田健史*、山田欣司*、小川泰卓*、宮下広大*、大石和徳*、谷 英樹*、板持雅恵*、佐賀由美子*、稲崎倫子*、畠田嵩久*、五十嵐笑子*、葛口 剛*、濱島洋介*、芦塚由紀* |
| 8 | 報告書等 | 地方衛生研究所等における病原体検査の質保証に向けた人材養成に関する研究 | 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理総合研究事業) 地方衛生研究所における感染症等による健康危機の対応体制強化に向けた研究 分担研究報告書 | 研究分担者 吉田 弘* 研究協力者 望月 靖 小笠原和彦*、筒井理華*、高橋雅輝*、藤森亜紀子*、山下裕紀*、高橋知子*、横井 一*、松岡隆介* |
| 9 | 報告書等 | COVID-19 実験室診断追補版(地方衛生研究所用)の作成 | 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理総合研究事業) 地方衛生研究所における感染症等による健康危機の対応体制強化に向けた研究 分担研究報告書 | 代表研究者 高崎智彦* 研究分担者 貞升健志*、調 恒明*、皆川洋子*、四宮博人*、木村博一* 研究協力者 望月 靖 水田克巳*、猿木信裕*、木下和俊*、奥野良信*、香月 進*、鈴木理恵子* |
| 10 | 報告書等 | 公衆衛生等の社会医学系分野で活躍する医師の育成・確保に向けた研究 | 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理総合研究事業) 公衆衛生等の社会医学系分野で活躍する医師の育成・確保に向けた研究 令和2年度総括研究報告書 | 研究代表者 磯 博康* 研究分担者 今中 雄一*、大久保靖司*、大槻剛巳*、祖父江友孝*、岸 玲子*、澤 智博*、小林康毅*、有賀 徹*、和田裕雄*、宇田英典* 研究協力者 望月 靖、山本光昭* |

*当センターに所属していない研究者

令和3年度

| No. | 種別 | 題名 | 報告書名等 | 著者 |
|-----|------|---|--|---|
| 1 | 報告書等 | 人形峠周辺の環境放射線等測定報告書(令和2年度) | 人形峠周辺の環境放射線等測定報告書 | 森上嘉亮、中野拓也、小川 登、三宅和彰、木村英治、望月 靖 |
| 2 | 報告書等 | 中四国ブロックにおける食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体情報の共有に関する研究 | (厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業) 食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体情報の共有に関する研究 令和3年度 分担研究報告書 | 研究分担者 狩屋 英明 研究協力者 河合央博、岡田達郎、中嶋 洋 門脇 泰奈*、野村亮二*、三瀬博也*、秋田裕子*、青田達明*、尾羽根紀子*、田中浩基*、岩下陽子*、浅野由紀子*、氏家絢子*、矢儀田優佳*、尾崎早矢香* |

| | | | | |
|---|------|---|---|---|
| 3 | 報告書等 | 全国地研ネットワークに基づく食品およびヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査 | (厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業)ワンヘルスに基づく食品由来薬剤耐性菌のサーベイランス体制の強化のための研究 令和3年度 分担研究報告書 | 研究分担者 四宮博人 研究協力者 狩屋英明 ほか |
| 4 | 報告書等 | 環境水を用いた新型コロナウイルス監視体制の構築に関する研究 | (厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業) 新型コロナウイルス感染症等の感染症サーベイランス体制の抜本的拡充に向けた人材育成と感染症疫学的手法の開発研究 令和3年度 総括・分担研究報告書 | 研究分担者 (総括) 吉田 弘* 研究分担者 北島正章* 研究分担者 原本英司* 研究分担者 渡部 徹* 研究協力者 望月 靖、木田浩司 坂 恭平*、筒井理華*、今野博貴*、藤森亜紀子*、北川和寛*、花田裕司*、藤沼裕希*、長島真美*、小澤広規*、谷 英樹*、板持雅恵*、葛口 剛*、伊藤 雅*、千葉翔子*、濱島洋介*、濱崎光宏*、佐々木 顕*、大槻亜紀子*、田嶋 淳*、喜多村晃一* |
| 5 | 報告書等 | 地方衛生研究所等における病原体検査の質保証に向けた人材養成に関する研究 | (厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理総合研究事業) 地方衛生研究所における感染症等による健康危機の対応体制強化に向けた研究 分担研究報告書 | 研究分担者 吉田 弘* 研究協力者 望月 靖 小笠原和彦*、筒井理華*、高橋雅輝*、藤森亜紀子*、山下裕紀*、高橋知子*、横井 一*、松岡隆介* |

*当センターに所属していない研究者

令和4年度

| No. | 種別 | 題名 | 報告書名等 | 著者 |
|-----|------|---|--|---|
| 1 | 報告書等 | 人形峠周辺の環境放射線等測定報告書(第44号) | 人形峠周辺の環境放射線等測定報告書 | 森上嘉亮、中野拓也、小川 登、信森達也、徳田 亨、林 隆義、望月 靖 |
| 2 | 報告書等 | 中国四国ブロックにおける食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体情報共有に関する研究 | (厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体情報共有に関する研究 令和4年度 総括・研究分担報告書:p115-125, 2023.4 | 研究分担者 河合央博 研究協力者 梶原知博、岡田達郎、左藤夏子*、野村亮二*、東久保唯*、青田達明*、大塚 仁*、北山朝樹*、岩下陽子*、浅野由紀子*、氏家 絢子*、矢儀田優佳*、尾崎早矢香* |
| 3 | 報告書等 | 全国地研ネットワークに基づく食品およびヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査 | (厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業)ワンヘルスに基づく食品由来薬剤耐性菌のサーベイランス体制の強化のための研究 令和4年度 分担研究報告書: 分担研究項目:全国地研ネットワークに基づく食品およびヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査 (研究分担者:四宮博人) | 研究分担者 四宮博人* 研究協力者 河合央博、梶原知博、岡田達郎 |

*当センターに所属していない研究者

学術誌掲載論文一覧

令和2年度

| No. | 題名 | 誌名 | 著者 |
|-----|--|---|---|
| 1 | Periodic Genotype Shifts in Clinically Prevalent <i>Mycoplasma pneumoniae</i> Strains in Japan | Frontiers in Cellular and Infection Microbiology , Vol.10, 1-13, 2020 | KENRI Tsuyoshi*, SUZUKI Masato*, SEKIZUKA Tsuyoshi*, OHYA Hitomi*, ODA Yoichiro*, YAMAZAKI Tsutomu*, FUJII Hiroyuki*, HASHIMOTO Toru*, NAKAJIMA Hiroshi, KATSUKAWA Chihiro*, KURODA Makoto*, SHIBAYAMA Keigo* |

*当センターに所属していない研究者

令和3年度

| No. | 題名 | 誌名 | 著者 |
|-----|--|---|---|
| 1 | 瀬戸内海における海水中有機物のC:N:P比と窒素・りん濃度の関係性について | 全国環境研会誌, 46(3), 42-49, 2021 | 鈴木元治*, 栢原博幸*, 大島 詔*, 中村 玄*, 向井健悟*, 藤田和男, 小田新一郎*, 宇都宮涼*, 浅川 愛*, 管生伸矢*, 安藤真由美*, 秋吉貴太*, 柳 明洋*, 松尾 剛*, 藤原建紀* |
| 2 | Whole-Genome Sequencing of Shiga Toxin-Producing <i>Escherichia coli</i> (STEC) OX18 from a Fatal Hemolytic Uremic Syndrome Case | Emerging Infectious Diseases, 27(5), 1509-1512, 2021 DOI: https://doi.org/10.3201/eid2705.204162 | LEE Kenichi*, IGUCHI Atsushi*, UDA Kazuhiro*, MATSUMURA Sohshi*, MIYAIRI Isao*, ISHIKURA Kenji*, OHNISHI Makoto*, SETO Junji*, ISHIKAWA Kanako*, KONISHI Noriko*, OBATA Hiromi*, FURUKAWA Ichiro*, NAGAOKA Hiromi*, MORINUSHI Hirotaka*, HAMA Natsuki*, NOMOTO Ryohei*, NAKAJIMA Hiroshi, KARIYA Hideaki, HAMASAKI Mitsuhiro*, IYODA Sunao* |
| 3 | 加熱抗原を用いた血清抗体価測による <i>Yersinia pseudotuberculosis</i> 感染症の発生状況調査 | 感染症学雑誌, 96(1), 8-14, 2022 | 中嶋 洋、河合央博、岡田達郎、狩屋英明、望月靖 |

| | | | |
|---|---|--|--|
| 4 | A discernable increase in the severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 R.1 lineage carrying an E484K spike protein mutation in Japan | Infection, Genetics and Evolution, 94, 2021 DOI: https://doi.org/10.1101/2021.04.04.21254749 | SEKIZUKA Tsuyoshi*, ITOKAWA Kentaro*, HASHINO Masanori*, OKUBO Kazuhiro*, OHNISHI Asami*, GOTO Keiko*, TSUKAGOSHI Hiroyuki*, EHARA Hayato*, NOMOTO Ryohei*, OHNISHI Makoto*, KURODA Makoto*, Virus Diagnosis Group (NIID Toyama) and COVID-19 Genomic Surveillance Network in Japan (COG-JP) (共著者) KIDA Kouji |
| 5 | 胆道感染症の併発が疑われたアナプラズマ症の1例 | 感染症学雑誌, 96(1), 29-33, 2022 | 川上万里*, 池田房雄*, 藤岡真一*, 藤田博己*, 木田浩司, 大橋典男* |

*当センターに所属していない研究者

令和4年度

| No. | 題名 | 誌名 | 著者 |
|-----|--|---|--|
| 1 | 倉敷川中・下流部における北側流域からの汚濁負荷についての一考察 -排出負荷量及び流達負荷量の検討- | 全国環境研会誌, 47(3), 44-49, 2022 | 藤田和男*, 林 隆義 |
| 2 | フグ食中毒発生時のおう吐物および尿中からのテトロドトキシンの検出 | 食品衛生学雑誌, 63(6), 225-230, 2022 | 難波順子, 浦山豊弘*, 金子英史, 佐藤 淳, 藤本佳恵, 繁田典子 |
| 3 | Karp 型 <i>Orientia tsuisugamushi</i> 感染によるツツガムシ病の1例 | 倉敷中央病院年報, 84, 57-59, 2021 | 山下達也*, 山下 彩*, 大谷稔男*, 木田浩司 |
| 4 | Japanese spotted fever with post-infectious encephalitis | IDCases, DOI:10.1016/j.idcr.2022.e01658 | Takafumi Wada*, Hitoshi Mori*, Kouji Kida, Katsuro Shindo* |

*当センターに所属していない研究者

他の試験研究機関等との連携

R 2 年度

| 整理番号 | 名 称 | 連携先 | 担当科 |
|------|---|--|-------|
| 1 | 光化学オキシダントおよびPM2.5汚染の地域的・気象的要因の解明（Ⅱ型共同研究） | 国立環境研究所 地方環境研究所 | 大気科 |
| 2 | 災害時等の緊急調査を想定したGC/MSによる化学物質の網羅的簡易迅速測定法の開発（Ⅱ型共同研究） | 国立環境研究所 地方環境研究所 | 大気科 |
| 3 | 化学物質環境実態調査 | 環境省 地方環境研究所 | 水質科 |
| 4 | 里海湖流域圏が形成する生物生息環境と生態系サービスに関する検討（Ⅱ型共同研究） | 国立環境研究所 地方環境研究所 | 水質科 |
| 5 | 農薬類の河川生態系への影響調査と一斉分析法に関する研究 | 岡山県農林水産総合センター水産研究所 | 水質科 |
| 6 | 児島湖に係る共同調査研究 | 岡山大学、岡山理科大学、中国四国農政局、中国四国地方環境事務所、岡山市、倉敷市、玉野市等 | 水質科 |
| 7 | 結核菌レファレンスセンターへの参加 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 8 | 百日咳・ジフテリア・ボツリヌスレファレンスセンターへの参加 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 9 | 大腸菌レファレンスセンターへの参加 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 10 | 厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究 分担研究 中四国ブロックにおける食品由来感染症の病原体の解析手法及び共有化システムの構築のための研究 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 11 | 厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業 食品由来薬剤耐性菌のサーベイランスのための研究 分担研究 地研ネットワークを利用した食品およびヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 12 | リケッチアレファレンスセンターへの参加 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | ウイルス科 |
| 13 | 厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 指定研究 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | ウイルス科 |

| | | | |
|----|---|---------------------|-------|
| | 環境水を用いた新型コロナウイルス監視体制を構築するための研究 | | |
| 14 | 日本医療研究開発機構（AMED）研究費補助金 感染症実用化研究事業 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 愛玩動物由来人獣共通感染症に対する検査及び情報共有体制の構築 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | ウイルス科 |

R 3 年度

| 整理番号 | 調査研究の名称 | 連携先 | 担当科 |
|------|---|--|-----|
| 1 | 光化学オキシダントおよびPM2.5汚染の地域的・気象的要因の解明（Ⅱ型共同研究） | 国立環境研究所 地方環境研究所 | 大気科 |
| 2 | 災害時等の緊急調査を想定したGC/MSによる化学物質の網羅的簡易迅速測定法の開発（Ⅱ型共同研究） | 国立環境研究所 地方環境研究所 | 大気科 |
| 3 | 化学物質環境実態調査 | 環境省 地方環境研究所 | 水質科 |
| 4 | 河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究（Ⅱ型共同研究） | 国立環境研究所 地方環境研究所 | 水質科 |
| 5 | LC-MS/MSによる分析を通じた生活由来物質のリスク解明に関する研究（Ⅱ型共同研究） | 国立環境研究所 地方環境研究所 | 水質科 |
| 6 | 里海里湖流域圏が形成する生態系機能・生態系サービスとその環境価値に関する研究（Ⅱ型共同研究） | 国立環境研究所 地方環境研究所 | 水質科 |
| 7 | 農薬類の河川生態系への影響調査と一斉分析法に関する研究 | 岡山県農林水産総合センター水産研究所 | 水質科 |
| 8 | 児島湖に係る共同調査研究 | 岡山大学、岡山理科大学、中国四国農政局、中国四国地方環境事務所、岡山市、倉敷市、玉野市等 | 水質科 |
| 9 | 結核菌レファレンスセンターへの参加 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 10 | 百日咳・ジフテリア・ボツリヌスレファレンスセンターへの参加 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 11 | 大腸菌レファレンスセンターへの参加 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 12 | 厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体情報の共有に関 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |

| | | | |
|----|--|--------------------------------|-------|
| | <p>する研究 分担研究</p> <p>中国四国ブロックにおける食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体 情報の共有に関する研究</p> | | |
| 13 | <p>厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業</p> <p>ワンヘルスに基づく食品由来薬剤耐性菌のサーベイランス体制の強化のための研究 分担研究</p> <p>全国地研ネットワークに基づく食品および ヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査</p> | <p>国立感染症研究所</p> <p>地方衛生研究所</p> | 細菌科 |
| 14 | <p>日本医療研究開発機構 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業</p> <p>薬剤耐性菌のサーベイランス強化および薬剤耐性菌の総合的な対策に資する研究</p> | <p>国立感染症研究所</p> <p>地方衛生研究所</p> | 細菌科 |
| 15 | <p>リケッチアレファレンスセンターへの参加</p> | <p>国立感染症研究所</p> <p>地方衛生研究所</p> | ウイルス科 |
| 16 | <p>厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業</p> <p>新型コロナウイルス感染症等の感染症サーベイランス体制の抜本的拡充に向けた人材育成と感染症疫学的手法の開発研究 分担研究</p> <p>環境水を用いた新型コロナウイルス監視体制の構築に関する研究</p> | <p>国立感染症研究所</p> <p>地方衛生研究所</p> | ウイルス科 |
| 17 | <p>日本医療研究開発機構 (AMED) 研究費補助金 感染症実用化研究事業 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業</p> <p>愛玩動物由来人獣共通感染症の対策を目指した総合研究</p> <p>愛玩動物由来人獣共通感染症に関する地方衛生研究所の対応の検討</p> | <p>国立感染症研究所</p> <p>地方衛生研究所</p> | ウイルス科 |

R 4 年度

| 整理番号 | 調査研究の名称 | 連携先 | 担当科 |
|------|---|--------------------|-----|
| 1 | 光化学オキシダント等の変動要因解析を通じた地域大気汚染対策提言の試み (Ⅱ型共同研究) | 国立環境研究所 地方環境研究所 | 大気科 |
| 2 | 化学物質環境実態調査 | 環境省 地方環境研究所 | 水質科 |
| 3 | 河川プラスチックごみの排出実態把握と排出抑制対策に資する研究 (Ⅱ型共同研究) | 国立環境研究所 地方環境研究所 | 水質科 |
| 4 | 里海里湖流域圏が形成する生態系機能・生態系サービスとその環境価値に関する研究 (Ⅱ型共同研究) | 国立環境研究所 地方環境研究所 | 水質科 |

| | | | |
|----|--|--|-------|
| 5 | 児島湖に係る共同調査研究 | 岡山大学、岡山理科大学、中国四国農政局、中国四国地方環境事務所、岡山市、倉敷市、玉野市等 | 水質科 |
| 6 | 結核菌レファレンスセンターへの参加 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 7 | 百日咳・ジフテリア・ボツリヌスレファレンスセンターへの参加 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 8 | 大腸菌レファレンスセンターへの参加 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 9 | 厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体情報の共有に関する研究 分担研究 中国四国ブロックにおける食品由来感染症の病原体解析の手法及び病原体 情報の共有に関する研究 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 10 | 厚生労働科学研究費補助金 食品の安全確保推進研究事業 ワンヘルスに基づく食品由来薬剤耐性菌のサーベイランス体制の強化のための研究 分担研究 全国地研ネットワークに基づく食品および ヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 11 | 日本医療研究開発機構 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業 薬剤耐性菌のサーベイランス強化および薬剤耐性菌の総合的な対策に資する研究 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | 細菌科 |
| 12 | 厚生労働科学研究費補助金（食品衛生検査施設等の検査の信頼性確保に関する研究） 特定原材料（小麦）の改良抽出法の室間共同試験による評価 | （地独）大阪健康安全基盤研究所 （一財）食品薬品安全センター秦野研究所 | 衛生化学科 |
| 13 | リケッチアレファレンスセンターへの参加 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | ウイルス科 |
| 14 | 厚生労働行政推進調査事業費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 新型コロナウイルス感染症等の感染症サーベイランス体制の抜本的拡充に向けた人材育成と感染症疫学的手法の開発研究 環境水を用いた新型コロナウイルス監視体制の構築に関する研究 | 国立感染症研究所 地方衛生研究所 | ウイルス科 |

| | | | |
|----|---|--------------------------------|--------------|
| 15 | <p>日本医療研究開発機構（AMED）研究費補助金 感染症実用化研究事業 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業</p> <p>愛玩動物由来人獣共通感染症の対策を目指した総合研究</p> <p>愛玩動物由来人獣共通感染症に関する地方衛生研究所の対応の検討</p> | <p>国立感染症研究所</p> <p>地方衛生研究所</p> | <p>ウイルス科</p> |
|----|---|--------------------------------|--------------|

技術研修・学会等への参加

令和 2 年度

・長期技術研修

| 整理番号 | 年月日 | 研修名 | 人員 | 参加 | 主催 |
|------|----------------------|--|----|-----|------------|
| 1 | R2. 8. 31～ 9. 18 | 令和 2 年度第 1 回遠隔参加型分析実習 (A コース) | 1 | 水質科 | 環境省環境調査研修所 |
| 2 | R3. 3. 15 ～ 3. 17 | 令和 2 年度検査機関に対する検査能力・精度管理等の向上を目的とした講習 (地衛研基礎講習) | 1 | 細菌科 | 国立感染症研究所 |

・学会等

| 整理番号 | 年月日 | 学会名等 | 人員 | 参加 |
|------|---------------------|---|----|-------|
| 1 | R2. 10. 2 ～31 | 第61回日本臨床ウイルス学会 | 3 | ウイルス科 |
| 2 | R2. 10. 20 ～22 | 第79回日本公衆衛生学会 | 1 | ウイルス科 |
| 3 | R2. 11. 9 | 第57回全国衛生化学技術協議会年会 | 1 | 衛生化学科 |
| 4 | R2. 11. 17 | 令和2年度全国環境研協議会中国四国支部会議 第74回地方衛生研究所全国協議会中国四国支部会議 | 1 | 水質科 |
| 5 | R3. 1. 14 ～1. 15 | 令和 2 年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー | 1 | 水質科 |
| 6 | R3. 2. 5 | 令和 2 年度名古屋市環境科学調査センター調査研究発表会 | 1 | 水質科 |
| 7 | R3. 2. 17 | 第36回全国環境研究所交流シンポジウム | 2 | 水質科 |

令和 3 年度

・長期技術研修

| 整理番号 | 年月日 | 研修名 | 人員 | 参加 | 主催 |
|------|--------------------------|--|----|------|----------------|
| 1 | R3. 5. 10 ～ 11 | 環境放射能分析研修「環境放射能分析及び測定」 | 1 | 放射能科 | 公益財団法人日本分析センター |
| 2 | R3. 9. 13 ～ 17 | 環境放射能分析研修「ゲルマニウム半導体検出器による測定法」 | 1 | 放射能科 | 公益財団法人日本分析センター |
| 3 | R3. 10. 4～ R3. 10. 29 | 遠隔参加型分析実習 (C コース (金属類 (水質) (ICP-MS))) | 1 | 水質科 | 環境省環境調査研修所 |
| 4 | R3. 10. 4 ～ R4. 2. 4 | 遠隔参加型分析実習 (D コース (ダイオキシン類 (GC/HRMS))) | 1 | 水質科 | 環境省環境調査研修所 |

| | | | | | |
|---|----------------------|-----------------------------------|---|------|----------------|
| 5 | R3. 10. 20～ 21 | 令和3年度薬剤耐性菌の検査に関する研修 基本コース | 1 | 細菌科 | 国立感染症研究所 |
| 6 | R3. 11. 8～ 10 | 環境放射能分析研修「ウラン分析法」 | 1 | 放射能科 | 公益財団法人日本分析センター |
| 7 | R3. 11. 29～ 12. 3 | 環境放射能分析研修「環境ガンマ線測定法」 | 1 | 放射能科 | 公益財団法人日本分析センター |
| 8 | R4. 1. 24～ 25 | 検査機関に対する検査能力・精度管理等の 向上を目的とした研修 | 1 | 細菌科 | 国立感染症研究所 |

・学会等

| 整理 番号 | 年月日 | 学会名等 | 人員 | 参加 |
|----------|-----------------------|--|----|--------------------|
| 1 | R3. 6. 9 ～10 | 第41回衛生微生物技術協議会総会・研究会 | 12 | 所長 細菌科 ウイルス科 |
| 2 | R3. 7. 30 | 第54回岡山県獣医公衆衛生学会 | 1 | ウイルス科 |
| 3 | R3. 7. 7～9 | 第58回アイソトープ・放射線研究発表会 | 1 | 放射能科 |
| 4 | R3. 9. 22～ 24 | 日本放射化学会第65回討論会（2021） | 1 | 放射能科 |
| 5 | R3. 10. 27 | 第32回廃棄物資源循環学会研究発表会 令和3年度全国環境研協議会研究発表会 | 1 | 水質科 |
| 6 | R3. 11. 18 ～11. 19 | 第48回環境保全・公害防止研究発表会 | 1 | 水質科 |
| 7 | R3. 11. 25 ～11/26 | 第58回全国衛生化学技術協議会年会 | 2 | 衛生化学科 |
| 8 | R4. 1. 17 ～1. 18 | 令和3年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー | 1 | 水質科 |
| 9 | R4. 2. 16 ～2. 17 | 第37回全国環境研究所交流シンポジウム | 3 | 所長 水質科 |
| 10 | R4. 3. 8～10 | 「環境放射能」研究会（WEB） | 1 | 放射能科 |

令和4年度

・長期技術研修

| 整理 番号 | 年月日 | 研修名 | 人員 | 参加 | 主催 |
|----------|------------------|--------------------------------------|----|------|--------------------|
| 1 | R4. 4. 26～ 28 | 環境放射能分析研修「ゲルマニウム半導体 検出器による測定法の基本」 | 1 | 放射能科 | 公益財団法人 日本分析センター |

| | | | | | |
|---|------------------|------------------------------|---|------|--------------------|
| 2 | R4. 5. 16 ~ 20 | 環境放射能分析研修「環境放射能分析及び測定」 | 1 | 放射能科 | 公益財団法人 日本分析センター |
| 3 | R4. 6. 7~9 | 環境放射能分析研修「放射化学分析研修」 | 1 | 放射能科 | 公益財団法人 日本分析センター |
| 4 | R4. 7. 6~8 | 環境放射能分析研修「ウラン分析研修」 | 1 | 放射能科 | 公益財団法人 日本分析センター |
| 5 | R4. 10. 5~6 | 令和 4 年度 薬剤耐性菌の検査に関する研修 基本コース | 2 | 細菌科 | 国立感染症研究所 |
| 6 | R4. 10. 19~21 | 結核菌ゲノム解析に関する講習会 | 1 | 細菌科 | 結核研究所 |
| 7 | R4. 10. 24~25 | 令和 4 年度環境大気常時監視技術講習会 | 1 | 大気科 | 公益社団法人 日本環境技術協会 |
| 8 | R4. 11. 28~12. 2 | 環境放射能分析研修「環境ガンマ線量率測定法」 | 1 | 放射能科 | 公益財団法人 日本分析センター |

・学会等

| 整理番号 | 年月日 | 学会名等 | 人員 | 参加 |
|------|----------------------|---------------------------|----|---------------------|
| 1 | R4. 6. 30 ~7. 1 | 第41回衛生微生物技術協議会総会・研究会 | 12 | 所 長 細菌科 ウイルス科 |
| 2 | R4. 8. 3 | 環境放射能研究ワークショップ | 1 | 放射能科 |
| 3 | R4. 8. 18 | 第46回瀬戸内海水環境研会議 | 1 | 水質科 |
| 4 | R4. 9. 15~16 | 日本放射化学会第66回討論会 (2022) | 1 | 放射能科 |
| 5 | R4. 10. 31 ~11/1 | 第59回全国衛生化学技術協議会年会 | 1 | 衛生化学科 |
| 6 | R4. 11. 10 ~11/11 | 第118回日本食品衛生学会学術講演会 | 1 | 衛生化学科 |
| 7 | R4. 11. 24~26 | 第4回日本保健物理学会・放射線安全管理学会合同大会 | 1 | 放射能科 |
| 8 | R5. 1. 23 ~1. 24 | 令和 4 年度化学物質環境実態調査環境科学セミナー | 1 | 水質科 |
| 9 | R5. 1. 23 | 第27回岡山県保健福祉学会 | 9 | ウイルス科 |
| 10 | R5. 3. 6~8 | 第24回「環境放射能」研究会 (WEB) | 1 | 放射能科 |

講師派遣の実績

R2年度

| 整理番号 | 年月日 | 研修・講習会名 | 演題 | 対象 | 担当科 |
|------|-----------|---|----------------------|-----------------|-------|
| 1 | R2. 9. 28 | 令和2年度岡山三川水質事故対策訓練 | 水質汚濁事象等危機管理初動対応講習・実習 | 行政担当者 消防機関職員 | 水質科 |
| 2 | R2. 10. 6 | 令和2年度農林作業安全講習会 | マダニ、ツツガムシの被害防止対策について | 一般 | ウイルス科 |
| 3 | R2. 11~12 | 令和2年度市町村職員環境対策研修会 | 水質事故時の対応について | 行政担当者 | 水質科 |
| 4 | R3. 3. 15 | 令和2年度検査機関に対する検査能力・精度管理等の向上を目的とした講習(地衛研基礎講習) | 感染症にかかる制度の概要 | 行政担当者 | 所長 |

R3年度

| 整理番号 | 年月日 | 研修・講習会名 | 演題 | 対象 | 担当科 |
|------|--------------|------------------------|------------------------|-------|-------|
| 1 | R3. 12. 3~26 | 令和3年度(第54回)中四国支部医学検査学会 | 新型コロナウイルスPCR検査における精度管理 | 医療関係者 | ウイルス科 |

R4年度

| 整理番号 | 年月日 | 研修・講習会名 | 演題 | 対象 | 担当科 |
|------|------------|---------------------|----------------------------------|------------|-----|
| 1 | R4. 4. 13 | 川崎医科大学講義 | 感染症・食品衛生関係の制度の概要 | 一般 (学生) | 所長 |
| 2 | R4. 10. 21 | (公財)おかやま環境ネットワーク学習会 | 岡山県環境保健センターの業務と岡山県気候変動適応センターについて | 環境関係者 | 所長 |

研修指導の実績

R2年度

| 整理番号 | 年月日 | 内 容 | 対 象 | 人数 | 担 当 科 |
|------|---------|----------------------|------------|-----|-------|
| 1 | R2.4~6 | 令和2年度水質測定精度管理調査 | 環境計量証明事業者等 | 5機関 | 水質科 |
| 2 | R2.5.11 | 新型コロナウイルスの遺伝子検査法見学会 | 医療機関等 | 6人 | ウイルス科 |
| 3 | R2.9.11 | 新型コロナウイルスに係るPCR検査の研修 | 医療機関等 | 4人 | ウイルス科 |
| 4 | R3.2.5 | 新型コロナウイルスの遺伝子検査法見学会 | 医療機関等 | 2人 | ウイルス科 |
| 5 | R3.2.17 | 新型コロナウイルスの遺伝子検査法見学会 | 医療機関等 | 3人 | ウイルス科 |

R3年度

| 整理番号 | 年月日 | 内 容 | 対 象 | 人数 | 担 当 科 |
|------|----------|-------------------|------------|-----|-------|
| 1 | R3.9.3 | 令和3年度水質測定精度管理調査 | 環境計量証明事業者等 | 6機関 | 水質科 |
| 2 | R3.12.10 | 令和3年度岡山三川水質事故対策訓練 | 行政機関等 | 70名 | 水質科 |

R4年度

| 整理番号 | 年月日 | 内 容 | 対 象 | 人数 | 担 当 科 |
|------|---------|-------------------|-------------|-----|-------|
| 1 | R4.5.25 | 川崎医科大学衛生学学外実習 | 大学生 | 19名 | 各科 |
| 2 | R4.7.7 | 令和4年度市町村職員環境対策研修会 | 市町村環境保全担当職員 | 25名 | 大気科 |
| 3 | R4.8.24 | 令和4年度水質測定精度管理調査 | 環境計量証明事業者等 | 7機関 | 水質科 |
| 4 | R4.9.29 | 令和4年度岡山三川水質事故対策訓練 | 行政機関等 | 72名 | 水質科 |